小川 OGAWA TOMOYUKI 友幸

▷ TEAM MITANI Honda

MFJ全日本トライアル選手権 国際A級スーパークラス 2022シリーズチャンピオン（シリーズ10年連続）

PROFILE ▶小川友幸

潤田在住。現在、TEAM MITANI Honda所属。46歳。MFJ全日本トライアル選手権 国際A級スーパークラス2022シリーズチャンピオンに輝き、2013年からのシリーズ連覇が10年連続に到達した。ダイナミックで素早く、流れるようなライディングスタイルからイタリア語で「猫」を意味する「Gatti（ガッチ）」と、ファンからは親しまれている。

小川友幸オフィシャルホームページ ▶

バイク トライアル BIKE TRIAL

特集 CHAMPION 菰野のトップアスリート

経験値が年齢を超える

積み重ねてきた成績は、2022年にとうとう10連覇に達した小川友幸（おがわともゆき）選手。長年の経験から培ってきた経験を生かし、46歳になった現在も日本王者の座を守り続ける小川選手の横顔に迫ります。

危険と隣り合わせの競技

人の足でも登れないような巨大な岩を、バイクで駆け上がる。時には、前輪を持ち上げたウィリーの状態で岩から岩へと軽やかに飛び移る。山の中に設定された障害物ばかりのコースを縦横無尽にバイクで駆け回り、クリアできたセクション数を競う競技がバイクトライアル競技です。小川選手は、そんな危険と隣り合わせのスポーツで幾度となく日本一の座に輝き、46歳となった現在も現役選手として険しいコースに挑み続けています。

90度近い傾斜を駆け上がり、軽やかなターンで空中へ舞い上がる小川選手。

1

2

3

1出演するイベントでは多くのファンと交流2小川選手のウィリーは角度が最大90度を超えるほど3田口新田区の夏祭りでパフォーマンスを披露する様子（2016年8月撮影）

経験で培った練習の質と判断力

父の趣味がきっかけで幼稚園の頃からバイクが身近にあったという小川選手。競技人生のスタートは最初、自転車競技からでした。中学生から競技用のトライアルバイクに乗り始め、10代～20代の頃はとにかくがむしゃらに競技に取り組んでいたといいます。

トライアル競技の練習は、基本的に山にこもって道とは言えない道を果敢に攻めていくため、とにかく孤独でけがの可能性も高くなります。そんな競技でありながら46歳となった現在も活躍を続けることができているのは、大きなけがに遭わないよう年齢とともに重ねてきた経験値で、練習の質と判断力を高めてきたことが大きいと小川選手は振り返ります。

孤独で危険な競技である一方で、大会などで誰もが無理だと思うコースを乗り越えたときの達成感と観客からあがる歓声が競技の最大のやりがいであると小川選手はいいます。

▲競技で使用するマシンの重量は70㎏を超えますが、競技中は重量を感じさせない動きで観客を魅了します。

絶対的な王者としての使命感

10連覇を果たした中、競技に取り組む際、いつも負けられないプレッシャーが付きまとうと小川選手は語ります。もう負けないだろうという周囲からのイメージや2位になっただけで不調を疑われる絶対的な王者としての重圧を常に感じ、自分は1位でいなければいけないという一種の使命感のようなものがあるといいます。そんな使命感を感じながら、小川選手は2023年、真の前人未到の記録に挑戦しようとしています。モータースポーツの年間の通算優勝記録回数は12回が最高記録で、13回目の年間優勝がかかる小川選手は誰も達したことがない領域に到達しようとしています。自身の年齢を考えても今年が挑戦へのラストチャンスだと語る小川選手の戦いは、これからも続いていきます。